

東京都リハビリテーション病院

ほのろフォーラム

(発行) 東京都リハビリテーション病院
医療福祉連携室

〒131-0034 東京都墨田区堤通 2-14-1

TEL : 03-3616-8600

FAX : 03-3616-8699

<http://www.tokyo-reha.jp>

第12号

H20年2月29日

東京都リハビリテーション病院 6階からの夕景と富士山



東京都リハ病院はより急性期思考に、より地域思考に

東京都リハビリテーション病院 院長 林・史

今年には医療のシステムが大きく変わります。75歳以上の患者様については生活機能を含めた包括的な病態を捉えて治療し、その後は地域で安心して暮らせるようにと配慮した後期高齢者医療制度が始まります。一方、リハビリテーション医療に関しては後遺症の多い脳卒中や骨折について、発症後の治療をする病院から後遺症を軽くする病院へ患者様がスムーズに移行できるように治療方針や診療録(カルテ)を共通にすることが望まれています。新聞には救急医療体制の不備について頻りに報じられておりますが、救急医療の充実によって折角命が救われても、その後にイキイキとした生活を送れなければ国民の満足は得られませんので、後遺症を軽くするリハビリテーション医療も重要視されているのです。

このような医療の動きに合わせて、東京都リハビリテーション病院では急性期病院からの継続診療が出来るよう近隣医療機関と協議を重ねており、病院はより急性期の病状についての医療を行いながら体の動きを回復させる方向に歩んで参ります。また、入院治療後に指導を受けて自宅生活をされる患者様については、その後も医療の関わりがなければ後遺症を抱えた体の動きをどの様に維持向上できるのかが分からないと言った患者様も多いようです。例えからだが不自由になられても自宅で患者様が少しでも自立した生活を送って頂けるように地域の様々なご支援を得ながら関わっていくのも東京都リハビリテーション病院の役割と考えておりますので、病院はより地域に目を向けて歩んでいきます。

以上のように東京都リハビリテーション病院は昨今の医療情勢に合わせてより急性期思考に、より地域思考に相反した、そしてより困難な2つの方向に歩み、都民の皆様がイキイキと生活し社会で活躍いただくのに役立ちたいと考えていますので、平成20年度も宜しく願いいたします。 平成20年春

東京都リハビリテーション病院運営理念

身体に障害を持たれた方々が生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療の推進をはかる。

19年度地域リハビリテーション支援事業進捗状況ご報告

1.3 区合同地域リハビリテーション連絡協議会準備会(*)が開催されました。



準備会(上)と懇親会(下)の様子



平成 19 年 11 月 29 日(木曜日)都立墨東病院大講堂にて墨田、江東、江戸川区の 3 つの区による 3 区合同地域リハビリテーション連絡協議会準備会が開催されました(出席者一覧表参照・事務局省略)。

林会長からの挨拶では、地域リハビリテーション連絡協議会の歩みや設置に至る社会背景等の説明があり、今後は東京都内 12カ所指定されている地域リハビリテーション支援センターの最先端の事業展開を、当協議会が担っていくことが、所信表明として披露されました。

事務局より具体的な事業展開として、全国初となる在宅リハサポート医のような地域リハビリテーションシステム構築、3 区に跨るリハビリテーションマップ作成、区民にリハビリテーションを広める為の公開講座や回復期リハビリテーション病院等の連携関係強化等、多岐にわたる平成 20 年度計画案が提示されました。今般の準備会では、細かな事業内容の確定には至らない部分もありましたが、来春 5 月に開催予定の発足会議に向けて、詳細な事業計画案の立案が確認されました。

もう一つの議題として、東京都心身障害者福祉センター高岸地域支援課長より、高次脳機能障害者支援に関する地域ネットワーク連絡会と当協議会の関わりについてお話があり、東京都内の当該患者様の実態や支援体制についてご解説をいただきました。今後は当協議会と

共に、より良い高次脳機能障害者支援の実現に向けた連絡会を開催していくことが確認されました。

閉会の挨拶では、東京都医師会副会長である、内藤裕郎先生よりお話を頂き、当協議会への東京都医師会の十分なバックアップ体制確保や高次脳機能障害者への対応が約束され、事務局である東京都リハビリテーション病院での更なる地域支援体制の強化等が具体的に示されました。本会終了後に懇親会も開催され、各医師会長よりご挨拶の後、和やかな雰囲気の中で地域リハビリの未来について語り合われました。

敬称略

備考	墨田区	江東区	江戸川区
顧問	東京都医師会 副会長 内藤 裕郎 (東京都リハビリテーション病院 副院長)		
顧問	すみだ医師会 会長 鈴木 洋	江東区医師会 会長 斉藤 正人	江戸川区医師会 会長 徳永 文雄
会長	東京都リハビリテーション病院 院長 林 史		
副会長 (候補含)	すみだ医師会 地域医療委員会 委員長 高石 潔	江東区医師会 理事 竹川 勝治	江戸川区医師会 理事 堀内 利信
医師会	すみだ医師会 地域医療委員会 梶原 宗介		
病院 代表	東京都立墨東病院 リハビリテーション科医長 佐々木信幸	江東病院 事務長 佐藤 久富 リハビリ技師長 尾崎 恵美	
行政機関 代表	墨田区福祉保健部保健衛生担当 保健計画課長 井上 俊策	江東区保健福祉部 高齢福祉課長 若井 利博	江戸川区役所 健康サービス課 課長 鈴木 恵美子
訪問看護 協会代表	墨田中央訪看ステーション 所長 廣瀬 祐子	江東区医師会訪看ステーション 所長 原田 博美	江戸川区医師会訪看ステーション 所長 杉浦 美代子
ケアマネ 代表	すみだケアマネジャー連絡会 蛭谷 典子	江東区介護支援専門員協会 副会長 國澤 一男	江戸川ケアマネジャー協会 理事長 須賀 康晴
その他 代表	墨田区ヘルパー事業者連絡会 原澤 良		江戸川区立障害者支援ハウス 支援係長 有吉孝之 支援相談員 梅津藍
東京都心身障害者福祉センター			
	地域支援課 課長 高岸 聡子	高次脳機能障害者支援担当 係長 田中 眞知子	地域支援課 事業係 中村 輝久雄

2. 平成 19 年度第 2 回区民公開講座が開催されました。

平成 20 年 2 月 16 日 曳舟文化センターレクリエーションルームにて、主催「地域リハビリテーション連絡協議会」、共催「墨田区」、後援「東京都医師会・すみだ医師会」で、『今始めよう転倒予防体操』の区民公開講座を開催いたしました。講師は首都大学東京 健康福祉学部理学療法学科の山田拓実先生。講演は、実技を交えた明るい講座となりました。山田先生は荒川区で「ころぼん体操」を考案された方として全国的に知られており、これまで実施されてきた地域一帯となった集団体操活動の広め方など、お話いただきました。

その後の一般区民の方約 75 名の参加にて行う「ころぼん体操」は圧巻で、参加者の皆様も息を合わせて行う体操に笑みがこぼれておりました。参加者のアンケートでは「墨田区でも同様の取組はないか?」「是非続けたい体操である」等、非常に興味深く回答を頂きました。参加者が、継続した運動やコミュニティーの場を求めていることも分かり、今後の当協議会の活動に反映させて参りたいと考えております。

平成 20 年度も皆様に喜ばれる公開講座を企画して参りますので、是非多くの方々の参加をお待ちしております。(当区民公開講座は、地域リハビリテーション連絡協議会にて企画運営されております。)



山田先生(上)と体操をする皆様(下)

※) 地域リハビリテーション連絡協議会は、東京都リハビリテーション病院が事務局となり地域リハビリテーション支援を行う任意団体です。



ナースマンの投稿コラム「情報提供のあり方を考える」

5 階病棟看護師 小川 彰

患者様やご家族と接する時間の多い看護場面においては、患者様の精神的なサポートがリハビリテーション看護の大きな役割の一つであると思います。

看護の世界では「傾聴」という言葉があります。相手の話によく耳を傾け、共感しながら心情の吐露を促す、といったニュアンスですが、精神的なサポートとは「傾聴」だけを言うのではなく、いってみれば患者様や御家族が「心のリハビリテーション」を進められるようにアプローチする事だと考えています。

最近になって、医療サイドの考え主導で進んでいるということや、それらが生じさせている歪みがあるのではないだろうか、と思うようになりました。

例えばパーセント(以下%)という表現。私事ではありますが先日、大切な人を癌で亡くしました。癌といえば、5年生存率や手術成功率などが%で医療者から提供されます。しかし、患者様・御家族からすれば、選んだ結果はいつも 0%か 100%なのです。0%と 100%以外の結果は全て医療者のものです。患者様・御家族は 0%か 100%として受け入れる選択をするのです。その差というリスクを引き受ける選択をするのです。そこには決め手となる情報が不可欠でしょう。看護の場面でよく患者様に「大丈夫ですよ」と説明していることがよ

くありますが、どうして「大丈夫」なのかは、説明される側の患者様が決めることで、患者様にとっては大丈夫かどうかを判断するための「決め手」となる情報が必要なのではないでしょうか。しかし、情報はただ多ければいいということでもなさそうです。例えば、これから外出をするときに降水確率 50%だったとして、50%という数字だけで傘を手に取りますか?ひとまず折りたたみ傘を鞆に入れますか?外の現在の天気はどうでしょうか、天気図はどうでしょうか、風向きは?気温は?空気のおいは?余計な情報もありますか?これらの情報は必要な人とそうで無い人といえるはずですが、天気図が読めない場合など、判断できない情報は参考になりませんし、情報の受け手が慎重派なのか、大胆なのかによっても違ってきます。そして、選択した結果、雨がふらなければ 0%、降れば 100%な訳です。ですから、情報は多いほどいいのですが、受け手が処理・解析できる情報なのかも鑑みる必要がある訳です。

心のリハビリテーションを促進するためには、医療者が「相手の気持ちになる・相手の立場に立つ」、という発想より、その努力をすること、つまり立場の違いを理解して行動することが大切ではないかと思えます。結果として、患者様・ご家族が「気持ちが変わって貰えた・自分の立場に立って貰えた」と感じるのではないのでしょうか。

脳卒中家族教室のご案内 脳卒中家族教室委員会 ソーシャルワーカー 加藤伸子

当院では入院中の家族様へ脳卒中のリハビリテーションについてのご理解を深めていただくために、6週間に1回、金曜の午後3時から当院大会議室にて「脳卒中家族教室」を開催しております。

教室では、医師から病気の原因となる状態や、麻痺などの後遺症による運動障害、感覚障害、半側空間無視、失行、嚥下障害、構音障害、失語症、高次脳機能障害、神経因性膀胱、などについて分かり易い説明を行い、専門チームでの目標設定や集中訓練、リハビリテーションの効果等についてのご理解を深めていただいております。また、当院で作成したビデオを観ていただいた際の疾患の解説や、各部門からの説明時間も設けております。後半は直接対話型の家族教室となっておりますので、質問時間も十分にとり皆様、日頃抱えている疑問や質問にも各部門のスタッフが直接応じる形式をとっております。

脳卒中家族委員会は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、ソーシャルワーカーの各部門代表で構成されており、様々なニーズに対応できるよう万全の体制で臨んでおります。家族様はもちろん、リハビリテーション関連従事者の見学(満席の場合はお断り申し上げます)も可能ですので、ご希望の方はご連絡下さい。



行事予定

「地域医療連携の会」開催のお知らせ

平成17年度より開催しております、地域医療連携の会は本年度で第3回を迎えることとなりました。

この会は患者様の受入や退院後の円滑な地域医療への継続推進を図るために、当院医師と近隣地域医療関係者方々と交流を深めていただくために開催するものです。当院の取組の現状や診療科・入院方法等をご説明するとともに、20年度に取り組む事業を紹介する予定です。講演会やそれに引き続き懇親会を行う予定となっております。関係者の方には、改めて招待状を送らせて頂きますが、是非お誘い合わせの上、ご来院下さいますようお願いいたします。尚、開催予定などは、下記をご参照下さい。

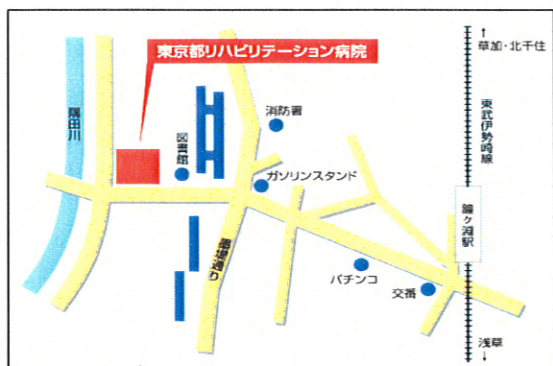
記

日時：平成20年4月23日(水曜日)

時間：19:00～21:00(2部構成)

場所：東京都リハビリテーション病院 大会議室

記念講演：首都大学東京 健康福祉学部 人間健康科学研究科 渡邊修教授
「高次脳機能障害への対応」



東京都リハビリテーション病院 交通案内

(電車) 東武伊勢崎線 鐘ヶ淵駅 下車徒歩7分

(バス) 両国から都営バス「東京都リハビリテーション病院 (路線番号：墨38)」行き(約30分) 終点下車

(お車) 首都高速六号線堤通ランプ下

本誌に関しますメールでのお問い合わせやご意見は、下記アドレスまでお寄せ下さい。

renkei-ito@tokyo-reha.jp

東京都リハビリテーション病院は東京都の指定管理者制度に基づき(社)東京都医師会が運営する病院です。